

漢字500問テストで高得点を取る

いずみ学力研 金井 敬之

小テストはいい点数が取れても

国語の授業で、漢字小テストは、日本のほとんどの学級で行われています。(はず)漢字ドリルに載っている短文を10題ずつテストします。毎日10題の短文を、漢字ドリルノートに写すという宿題を出すのが一般的でしょう。

漢字小テストは、テストに出る漢字も順序もわかっているのに、何日間かノートに練習すると、ある程度の点数を取ることができません。(もちろん、ていねいな手立てや苦手な子への配慮は必要です)

漢字小テストがある程度できて、学期末の50問テストをすると、極端に点数が悪くなる場合があります。子どもたちは、小テストの出題(出

る漢字と順序が決まっている)に慣れているので、ランダムに500字の漢字が出題されるテストに戸惑います。

新出漢字の学習が終わって、小テストが終わったら、50問テストに向けての学習を始めます。50問テストのプリントを印刷して、そのプリントを練習させて、テストをするという方法は取りません。その方法では、その学期に例えば800字新出漢字を学習したのにもかわらず、出題される50問しか練習しないことになるのです。

800字全部を練習して、50問テストを受け、95点を取ったとすると、800字の95%を覚えたといえます。小テストの練習に比べて、大

変ですが、子どもたちの漢字力を鍛えます。次の3点を子どもたちに伝えます。

- ・その学期に習った全部の漢字を練習し50問テストをする
- ・テストの日を1週間後から10日後に設定する
- ・90点以上が合格で、不合格は再

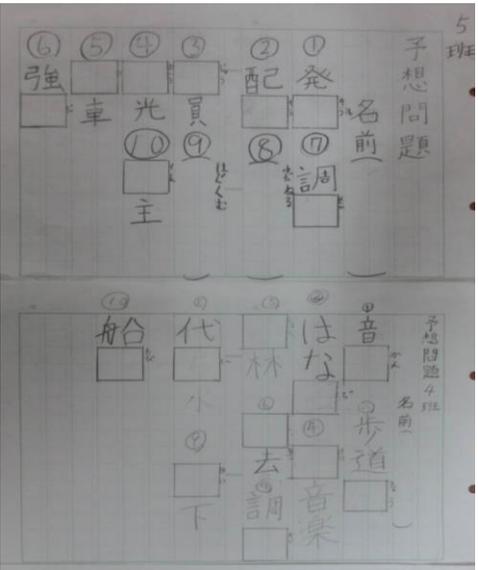


テストをする

練習の方法

国語の授業の中で、漢字ドリルの目次を見ながら、一字ずつ80字をノートに写します。80字という和多いように思うかもしれませんが、10分程度でできます。それを2回繰り返します。(1回は宿題にしてもいいでしょう)

次に、送りがなのつく漢字を写していきます。これも2回繰り返します。



今度は、教師が読み上げた漢字を子どもたちはノートに書いていきます。その時、読み上げる順は、ドリルの順にします。自分で採点がしやすいからです。

さらに、送りがなのある漢字を読み上げます。ここまで練習したら、自分の苦手な漢字がわかってきます。そこで、自分の苦手な漢字を練習させます。

班で予想問題を作ったこともあります。

このような取り組みをして、50問テストを実施します。

テストの結果

テストの結果は、次のようになりました。

100点	4人	(0人)
90点台	17人	(14人)
80点台	5人	(9人)
70点台	3人	(4人)
60点台	0人	(1人)

()は1学期の50問テスト

2学期の点数がよかったのは、この学習方法に慣れたからだと思えます。

90点に満たなかった子どもたちは、再テストをして合格をしました。これは、テストと同じプリントをしました。

